



ポストコロナを見据えて、あるいはウイズコロナ

検査部部长 康 東天

2021年最初の検査だよりです。

今回のコロナ禍による予防的な行動様式の変容が今冬のインフルエンザを激減させています。一方で去年の春先から騒がれた新型コロナはどうも一過性の感染症で終わる気配はなさそうです。つまり、新型コロナはインフルエンザより感染性が高いということは明らかです。一般的なコロナウイルスそのものは普通の風邪ウイルスとして市中に存在していることを考えると、新型コロナもワクチンが効果を出したとしても、変異を繰り返し、結局インフルエンザのように思い出したように流行するウイルス感染症として残る可能性が高いような気がします。

感染症学も免疫学もさらにはそれに関連する分子生物学も近年急速に進歩しており、それがこれまでの通常概念では信じられないぐらいの速さでワクチンの開発と認可につながっています。検査部も迅速な診断を通じて新型コロナの診療に大いに貢献しています。新しい診断キットや診断機器が半年もしないうちに次から次へと現れ、臨床検査学の進歩も実感した1年でした。本当の意味での新しい治療薬の開発と認可は基準がより厳しく、通常10年ではすまないで、ワクチンのようにはさすがに行かないでしょう。長い付き合いが必要な予感がします。つまりポストコロナはウイズコロナだろうということです。

今回のコロナ禍が変えた生活様式と社会活動様式は、ウイズコロナでどうなっていくのでしょうか。さすがに現在のような(1月時点)厳しい制限は無期限に続けられるはずもなく、しかしこれまでに身に沁みついた感染症への気付きがそこかしこの行動に残りつつ日常に戻っていくのでしょうか。そのうちに市中の新型コロナも弱毒化することを楽観的に願いつつ、、、。



《今号の紙面》

検査部部长よりあいさつ	…p.1
鉄分検査室	…p.2
病理部からのお知らせ	…p.3
検査部からのお知らせ・編集後記	…p.4

鉄分検査室 第56回 《東日本大震災より10年》

白いかもめ

令和2年(2020)12月10日八丈島西岸の八重根漁港に全長約5.5mのFRP船が漂着した。大量のサンゴが付着し船内にたまった海水には魚も泳いでいた。船の登録番号から東日本大震災の津波で流された宮城県気仙沼市唐桑漁港の船と判明した。アメリカ西海岸付近まで流され、北赤道海流で東南アジアへ移動し、黒潮に乗って時計回りに八丈島に流れ着いたものと推定される。

東日本大震災の記憶を封印した船であった。



☆☆☆☆☆☆☆☆

平成23年(2011)3月11日14時46分発生のマグニチュード9.0の地震は東日本太平洋沿岸の広域に津波が襲来し地震に加え更なる大災害をもたらした。

鉄道の被災も甚大で東北新幹線、八戸線、三陸鉄道、山田線、釜石線、大船渡線、気仙沼線、石巻線、仙石線、仙台

双葉駅 常磐線全線運転再開横断

双葉駅 運賃表

空港線、常磐線等が被災した。鉄道史において最大の被害を生み出した災害となった。

これら被災鉄道の復旧は数年余を要し薄皮を剥ぐように徐々に運転区間が延びていった。最後に残っていたのが他の被災鉄道線区と異なる事情がある常磐線富岡・浪江間であった。福島第1原発事故に伴う帰還困難区域を走る区間で被災後すぐには復旧作業に取りかかれなかった。まず放射線量の測定が行われ、放射性物質で汚染された表土の除去や汚染した枕木の交換から復旧作業は始まった。

令和2年(2020)3月14日常磐線富岡・浪江間が復旧した。震災から9年ぶりに常磐線が全線復旧し、東日本大震災で被災した鉄道の復旧が完了した。

復旧日常磐線を走破した。それまで不通区間は代行バスが連絡していたが、9年ぶりに列車で全線乗車できた。富岡・浪江間に夜ノ森、大野、双葉の3駅があるが、復旧に当たって線路沿いと駅周辺の極一部だけが帰宅困難区域から解除されただけであった。各駅に下車したが、駅前の街区はフェンスが張り巡らされたままであった。各駅の改札口には、放射線空間線量率が電光掲示で表示されていた。



双葉駅前帰宅困難区域通行止め



夜ノ森の桜

当日は小雨の降る寒い日であった。夜ノ森駅から桜並木のある通りまで徒歩で向かったが、理髪店やスーパーマーケット、交番、民家が立ち並んでいるもののフェンスに囲われ人の気配はなく日常の暮らしが止まったままになっていた。

福島第1原発事故を描いた映画<Fukushima 50>(令和2年2020)の終幕に見事に咲く夜ノ森の桜並木のシーンが登場する。たどり着いた夜ノ森の桜並木の桜の蕾はまだかたかった。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

東日本大震災から10年を迎えるが、未だ仮設住宅に暮らす人々がいる。非日常の仮設住宅の生活がもはや日常の生活であるかのように感じるだけの時間が経過している。

もうすぐ被災地は震災から11度目の桜の開花を迎える。

病理部からのお知らせ

検査部・病理部アンケートにご協力いただきありがとうございました。

病理部は皆さまから頂いたご意見・ご要望を元に業務改善に努めて参ります。

アンケート結果より、病理組織バーチャルスライドや病理部院内HPの認知度が低いことが分かりましたので、今回ご紹介したいと思います。

●バーチャルスライド導入のお知らせ

病理診断後のHE標本、免疫染色標本のバーチャルスライドが2019年1月の標本よりHIS端末で閲覧可能となっております。

閲覧方法については病理診断科・病理部の院内HP内「バーチャルスライド閲覧方法」に掲載しておりますのでそちらをご覧ください。バーチャルスライドは診断後、3～5日でHIS端末に取り込み予定です。

※標本によっては日数が前後する場合があります。

●病理部院内HPについて

現在、病理診断科・病理部は院内HPにて検体提出方法や検査項目一覧、病理部からのお知らせなど掲載しております。是非ご活用ください。

病理診断科・病理部(内線 5854)

病理診断科・病理部ホームページ

スタッフ紹介 技師紹介	南棟 4階 病理組織診断 (内線5854) 細胞診断 (内線5853)
病理当番医、スタッフ教室番号	F A X 5852
組織診断の流れ	北棟地下 1階 剖検室 (内線6073)
他院持ち込み標本の依頼について	病理診断科・病理部では以下のような業務を行っています
術中迅速組織診断	●病理組織診断
病理解剖依頼について	●細胞診断
細胞診断について	●術中迅速組織診断
細胞診検体提出について	●術中迅速細胞診
術中迅速細胞診断	●病理検体を用いた検体遺伝子検査・免疫染色(外注)
プレパラート貸し出し	*術中迅速組織診断・細胞診断は前日の14時までに予約が必要です。(内線5854 5853)
ブロック貸し出し	*骨髓クロット組織診断にはスメアの結果が必要となりますので、
未染プレパラート作製	スメアの検査終了後直ちにスメアの結果を病理診断科・病理部まで送付して下さい
病理検体検索 (WEB)について	病理検査実績 (2019.1.1~2019.12.31)
各種申請書	・病理組織診断: 18,776件
病理検査の手引き	・術中迅速組織診断数: 1,065件
検査項目一覧	・細胞診断数: 17,280件
時間外および休日の検体提出方法	・剖検数: 98体(院内: 35体、院外(久山含む): 63体)
バーチャルスライド閲覧方法	・剖検率15%(院内剖検数: 35体、院内死亡数: 231体)
お知らせ	



検査部からのお知らせ

【検査部HPについて】

HISに掲載している検査部の院内HPには、オーダーリングにて依頼のできる検査項目一覧や、院内・外注の採取容器の一覧を掲載しています。

採取容器一覧には採取容器に関する注意事項も載せていますので、参考にしてください。

・検査項目について

院内ホームページ→検査部→検査項目→検査項目一覧

・採取容器について

院内ホームページ→検査部→検査項目→採血管一覧(院内と外注があります)

* 最新版の管理を心掛けておりますが、新規項目や変更の反映が遅れることがあります。

急な変更等は検査通報やUsersメールでもお知らせすることがありますので、ご確認をお願いいたします。

検体検査室・受付(5771)

【検体の提出先について】

採血検体の提出先には、検査部の検体検査室以外に、細菌検査室、輸血部、薬剤部、遺伝子細胞療法部などがあります。また、尿検体や腹水、胸水といった体腔液では、検体検査室以外に、外来検査室、細菌検査室、病理部などの提出場所があります。

検体提出場所を間違えて提出すると、検査の遅延や紛失につながる可能性となります。提出場所はラベルの右上に記載されていますので、提出する際はご確認をお願いいたします。

検体検査室・受付(5771)

【HIT抗体 院内検査への変更について】

令和3年1月12日(火)よりHIT抗体検査を外部委託検査より院内検査へ移行しています。

採血管を下記のように変更していますのでご留意ください。なお、この変更に伴う基準値の変更はありません。

【凝固検査】

項目名称：HIT抗体

材 料：血漿

単 位：U/mL

基準範囲：1.0 U/mL未満

採血管：(変更前)SRL 黒 L →(変更後)ニプロネオチューブ NP-CW0185(黒)

凝固検査室(5759)

編集後記

第3波のコロナ禍は依然終息のめども立たず、再び非常事態宣言がだされて、会食もままならない状況が続いています。コロナ検査に追われ、PCR検査結果も迅速に出す等、まさに息をつく暇もない状況です。検査部では種々の遺伝子検査をおこなっていますが、検査は息を詰めながら結果報告は息の合った連携で確実にを行っています。検査終了時には一息を入れ、三密を避けるため時には息が詰まることもありますが、日々研鑽に励んでおります。コロナ禍の息が長くないことを祈って息たいと思います。

(内海健)